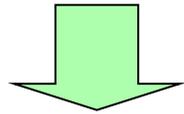


# 砂川市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年8月～24年8月)

## 【中心市街地を巡る状況】

- 隣接する上砂川町、歌志内市での相次ぐ炭坑閉山(～S62)による経済基盤の喪失
- 化学肥料製造工場等の大幅な縮小・撤退
- 夕張メロンピュアゼリーで有名な「ホリ」等の菓子産業9社、国内唯一の馬具メーカーで高級皮革製品でも有名な「ソメスサドル」が集積
- 札幌や旭山動物園等の著名地への通過点

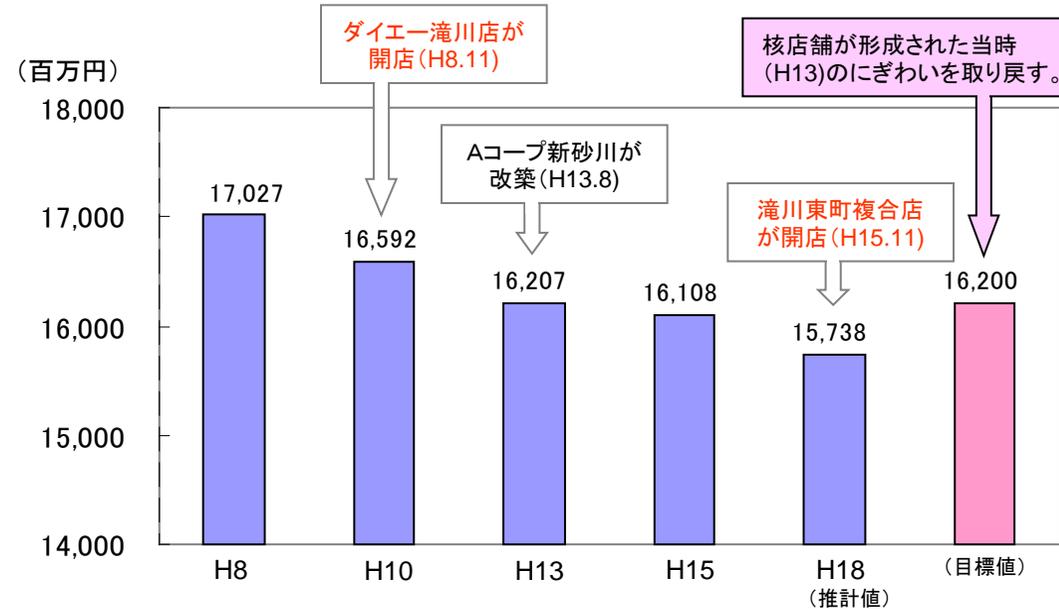


- 中心市街地の小売商業年間販売額はH8からH15にかけて5%減少
- 中心市街地の人口はH9からH18にかけて、7%減少
- 除排雪費等の大きな行政コスト  
 ( H16: 1億9千万円、H17: 1億7千万円 )  
 市全体の年間予算の約2%

## 【目標】

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H23)
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量(平日)	3,633人	4,400人
まちなか居住の促進	居住人口	6,052人	6,200人
商店街活性化	年間商品販売額	15,738百万円	16,200百万円

(年間商品販売額の動向と数値目標)



商店街の活性化を目標として、地域医療の中心的役割を担う市立病院の建替えと機能拡充、菓子産業等の地域資源の有効活用等により、安心と憩いを提供するまちづくりを行う。

# 砂川市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 安心して暮らせるまちづくり

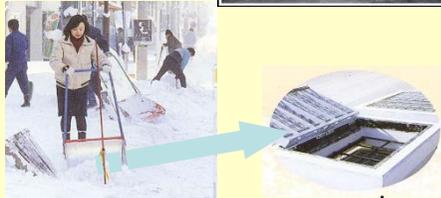
○引き続き、地域医療の中心としての役割を果たせるよう老朽化した市立病院の建て替えを実施。隣接地に新棟を建設し(120人のスタッフ増(657人→771人)を実現)、旧棟跡地には立体駐車場(収容台数約2倍)を建設。



○JR駅東西の交流人口増加を図るため、高架下部分を掘り下げ、狭小道路を2車線に拡幅。



○火力発電所の温排水を放流するために設置された流雪溝に投雪することにより、堆積雪のない歩道空間を確保。(冬トピア事業)



## 憩いの提供

○旧市民会館に代わる地域交流センター(H19.1オープン)を、600超の個人会員から成るNPO法人が運営。市民主体の音楽劇団の発表会や高齢者向け健康講座を実施。



(半年での利用者数: 4万3千人)

○国道12号沿い2.3kmの範囲で植花事業をH14より毎年5月から10月まで実施(H18にはボランティア180名を含む400名が参加)。H17には、市立病院から商店街を結ぶ市道の植花事業もスタート。



## 商店街活性化

○道央圏を中心に新聞社主催による中心市街地内の菓子店や馬具製造メーカーを巡るバスツアーを実施(H18:9回、380人参加)。



○菓子店主等が匠の技を伝授する体験型講演会の実施。



○バス回数券をイベントの景品とし、市立病院のバス来院者向けに活用してもらう。



オアシスパーク

○買い物しなくても気軽に入店してもらう「ひやかしスタンプラリー」やオアシスパーク・流れのプラザ等を徒歩で巡るウォーキングラリーを実施。



流れのプラザ

## まちなか居住推進

○新築住宅の建設または中古住宅の購入費に対する工事費の3%(中心市街地地域外は2%)助成事業等を実施。

